



2022年4月20日

建設RXコンソーシアム事務局

## 建設RXコンソーシアム

### 設立半年で会員数70社超！ 9つの分科会で活動を推進中

建設RXコンソーシアム（以下、本コンソーシアム）は、昨年9月の設立から概ね半年が経過した現在、当初の正会員16社から73社（正会員23社、協力会員50社）へと順調に会員数を増やし、積極的に活動を進めています。

各社が共同で研究開発を行う分科会についても、資機材の自動搬送、タワークレーンの遠隔操作などに加えて、生産BIMや市販ツール活用などの新テーマを立ち上げ、現在では9つの分科会が活動を推進中です。今後、現場などへの適用に向け、これらの取組みをより一層具体化していきます。

本コンソーシアムは、建設業界の喫緊の課題といえる、労働力不足の解消、建設現場での生産性や安全性の向上について、施工ロボットやIoTアプリの開発と利用に係る「ロボティクス・トランスフォーメーション（RX）」を推進することで解決を図るべく発足したものです。本日4月20日（水）、第2回総会を開催しました。

以上

補足資料

1. 会員企業（4月20日時点）

◆幹事会社（3社）：鹿島建設、竹中工務店、清水建設

◆会計監事（1社）：戸田建設

◆正会員（19社）：順不同

1	浅沼組	11	長谷工コーポレーション
2	安藤・間	12	前田建設工業
3	奥村組	13	矢作建設工業
4	熊谷組	14	飛島建設
5	鴻池組	15	五洋建設
6	銭高組	16	東洋建設
7	鉄建建設	17	佐藤工業
8	東急建設	18	青木あすなろ建設
9	西松建設	19	三井住友建設
10	フジタ		

◆協力会員（50社）：順不同

1	エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ	18	ブレインズテクノロジー	35	西尾レントール
2	建ロボテック	19	Lis B	36	アジアクエスト
3	日立造船	20	シージャパンギョウテンサービス	37	たけびし
4	ソフトバンク	21	センシンロボティクス	38	ムロコーポレーション
5	エヌ・ティ・ティ・コムウェア	22	スパイダープラス	39	日揮グローバル
6	NTTドコモ	23	富士通	40	スマートロボティクス
7	ジー・オー・ピー	24	セーファー	41	積水化学工業
8	TSUCHIYA	25	SORABITO	42	レンタルのニッケン
9	リハスタ	26	ワークスマイルジャパン	43	KM ユナイテッド
10	YSLソリューション	27	三菱商事	44	NYKシステムズ
11	損害保険ジャパン	28	きんでん	45	関電工
12	東京海上日動火災保険	29	エイジエック	46	九電工
13	ベトンテック	30	建設・測量生産性向上展事務局	47	東光電気工事
14	アート	31	アラヤ	48	トエネック
15	カネト	32	日本電設工業	49	東レ建設
16	日鉄溶接工業	33	アクティオ	50	工機ホールディングス
17	アクトエンジニアリング	34	エアロセンス		

## 2. 現在活動中の分科会

### (1) 資材の自動搬送システム分科会

建築現場内における資機材搬送の自動化を図る。自動搬送台車をはじめ、様々な搬送装置やロボットにも対応できる柔軟なシステムを開発する。

### (2) タワークレーン遠隔操作分科会

既開発のタワークレーン遠隔操作システム「TawaRemo<sup>®</sup>」のさらなる機能向上を図るとともに、会員企業への展開を進めていく。

### (3) 作業所廃棄物の AI 分別処理分科会

次の3つをパッケージ化して現場適用と機能向上を図る。①アプリによる廃棄物 AI 分別、②圧縮機による産廃容量削減、③満量センサーによる産廃容量の見える化。

### (4) コンクリート系ロボット分科会

各社で既開発のコンクリート系ロボットについて、比較評価と、会員企業への適用拡大を進め、改善、改良を図っていく。

### (5) 墨出しロボット分科会

各社で既開発のロボットについて、調査し性能比較などの評価を進める。

### (6) 照度測定ロボット分科会

照度測定から照度調整までを自動的にワンストップで実施できる既開発のロボットについて、現場適用の拡大と改良を進める。

### (7) 生産 BIM 分科会

設計 BIM を受けた施工 BIM、維持管理 BIM へのデータフローの整理と、施工者から専門工事会社へのデータ連携について検討する。BIM データ活用ロジスティクス共通コード等について議論し、業界提言を行っていく。

### (8) 相互利用可能なロボット分科会

各社が既開発の各種ロボットについて、会員企業に展開するとともに、使用時のフィードバックを受け、機能改善を図っていく。

### (9) 市販ツール活用分科会

市販技術をリスト化し、製品仕様、特徴、評価等の情報を一元化して共有する。結果をメーカー・ベンダに提示し、より効果の高い製品に改良を促す。

以上